

8月6日、きのこ雲の下で

このポスターは、広島に投下された1発の原子爆弾がもたらした影響について、小・中学生など若い世代に向けて、分かりやすく解説したものです。

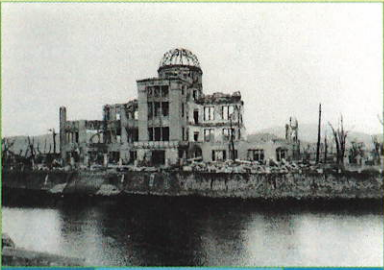

「熱線」、「爆風」、「放射線」をキーワードに写真や絵を交えて説明しています。

ぜひ、学校での平和学習、広島平和記念資料館への来館に際しての事前学習、また、地域での展示会などにご活用ください。

○ 使用料は無料で、往復の送料のみご負担ください。 ○ 全17ページ

1

ヒロシマを知ろう!!
8月6日、きのこ雲の下で

ひろしまへいわ きおん しほうかん
広島平和記念資料館

2

原爆ドームと広島平和記念資料館



原爆ドームと広島平和記念資料館

今からおよそ70年前、広島は原子爆弾(原爆)ともいいます。)を落とされ、大きな被害を受けました。原爆は爆され、多くの人々が亡くなりました。生き残った人たちも、心と体に大きな傷を受け、今でも多くの人たちが苦しんでいます。

原爆が落とされ、広島街の町や人がどうなったかを、絵や写真を使ってお伝えします。

3

広島に原爆が落とされたのは、1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分です。



原爆15分後で止まった時計の針の位置

そのころ日本は、アメリカやイギリスなどの国と戦争をしていました。そんな中、アメリカは原爆をつくることに成功し、広島と長崎に落としました。

これは、広島に落とされた原爆の写真です。原爆は、広島市の中心の上空約600メートルで爆発しました。



広島に落とされた原爆

原爆が落とされたとき、広島には約35万人がいたと考えられています。原爆で亡くなった人の正しい数は、今でもよく分かっていませんが、1945年(昭和20年)12月の終わりに、約14万人が亡くなったと考えられています。亡くなった人の中には、子どもや年寄り、日本人だけでなく外国人もいました。

4

原子爆弾の飛行機から撮影されたときの様子



原爆が落とされた後、きのこ雲の形をした雲が広島上空にできました。

この写真は、原爆が落とされた8月6日の午前11時ごろに撮影されました。人々の様子を見ると、原爆はボロボロ、髪はちぎれているのが分かります。



けがややけどに苦しむ人たち
原爆: 広島市
撮影: 1945年8月6日
場所: 広島平和記念資料館

5

熱線 爆風 放射線

原爆の爆発により、とても強い熱と人の体に危険な放射線が出されました。また、熱で周りの空気が大きくふくらみ、爆風となって広がりました。これが爆風に合わさって、とても大きな被害をもたらしました。

原爆の特徴は、一瞬で街のほとんどが壊され、たくさんの方が亡くなった。大けがをしたりしたこと、目に見えない放射線が、長い間人々を苦しめたことでもあります。

熱線とは? ...爆発によって出される強い放射線
爆風とは? ...爆発によって広がる強い風
放射線とは? ...放射線は、原子核が壊れるときに放出する。人が目を覚めず、気が付かずに死んでしまう。気が付くと、体の一部が壊れて死んでしまうことがあります。

6

熱線の被害

爆発により火の球(火球)ができ、0.2秒後には半径200メートルになりました。この時、火球の表面の温度は、約7,000度でした。火球の表面温度は約6,000度です。熱線を受けた人の中には、「まるで小さな太陽が落ちてきたみたいだった」という人もいます。

爆発によりできた火球

爆発の温度: 約7,000度
爆心地の温度: 3,000 ~ 4,000度
爆心地: 600m

火球からは、とても強い熱線が出ました。原爆が爆発した場所の真下の地上(爆心地)周辺で熱線を直接体に受けた人は、皮膚が焼けつき、亡くなりました。

